

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676300116
法人名	医療法人愛誠会
事業所名	グループホーム あがいやんせ
所在地	鹿児島県曾於市大隅町岩川5520番地 電話) 099-482-2535
自己評価作成日	平成22年3月22日
評価結果市受理日	平成22年5月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	-------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成22年4月7日
評価確定日	平成22年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の運営目標に「グループホームあがいやんせ独自の認知症ケアと自立支援の更なる充実」を掲げ、開設当初から大切にしてきた、認知症を患っていても人として尊厳ある生活をして頂くことを心がけている。職員は入居者本人の残存能力を活かした生活の場を提供することに注意し、入居者の自尊心を高め主体的に生活できる自立支援を大切に行っている。こうした日々のケアを所属ミーティングやケースカンファレンスを通じて見つめ直し、適宜、改善を図っている。平成16年度に作成した、業務マニュアルや日課についても所属ミーティングで協議し、必要に応じて改善を図っている。また、自立支援の更なる充実を目指し、年間計画に位置づけた、梅干し作り・らっきょう作り・干し柿・切り干し大根など季節を感じる行事を積極的に行っている。毎年開催される夏祭りでは、男性利用者は甚平を、女性利用者は浴衣を着て参加し、夏の風物詩を楽しんでいる。その他、近隣市町にドライブに出かけ外食を楽しむこともある。また、あがいやんせでは、毎年家族旅行を実施している。家族旅行は、『入居者とその家族の楽しい思い出をつくること、入居者の今後の生活に生き甲斐や楽しみがもてるようになること、家族と職員との連携や入居者家族同士の繋がりを強くすること』を目的に開催している。入居者が常に主人公となれるような環境づくり、ケアを心がけ、更なる自立支援の充実を図るとともに、認知症介護の専門職員の育成、運営推進会議を活用した地域の認知症介護への理解浸透にも努力していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域における高齢者介護の拠点である、同一法人の老人保健施設に隣接して建てられた民家改修型のホームである。開設から満10年を迎えたが、ゆっくり、いっしょに、生活を楽しむという当初からの思いを忘れず、入居者が残存能力を活かしながら尊厳のある生活を送れるように、常に業務改善に取り組んでいる。老人保健施設に併設している温室ハウスでボランティアとして活動し、施設の入所者と定期的に交流するなど、馴染みの関係づくりを積極的に行っている。家族主導で行われる家族会や毎月の家族面談では、ケアや運営に関する意見や要望を聞く機会を設けており、毎年続けている家族旅行と併せて、ご家族との絆をさらに強いものとしている。運営推進会議については、年間計画を立てて各回のテーマを定めており、参加されるご家族や地域の方々に、認知症及びホームの運営についての理解を深めていただく場となっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全職員が閲覧できる場所に理念を掲示している。職員の入職時には、管理者等が必ず理念を伝え、理念の浸透と理念を意識したサービスの実践を心がけるよう適宜指導を行っている。	従来の理念に「地域の方々と一緒に」という一文を加え、地域密着型サービスとしての役割を意識した新たな理念を作り上げている。併せて期間限定理念も策定し、ミーティング時の唱和などを通して共有し、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所案内パンフレットを配布することや運営推進会議で家族や地域住民へ理念の浸透につながるテーマ、議題を設定し、会議を行うことにより理解浸透を図っている。	地域の伝統行事や小学校の運動会などに参加したり、職場体験学習を受入れるなどして、地域との交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	2ヶ月に1回、地域住民等が参加する運営推進会議を開催し、活動報告や高齢者介護に役立つ情報提供等を行っている。また、近隣他事業所の研修生やヘルパー養成講座実習生の受け入れを毎年行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、あがいやんせでの行事等の報告やサービス自己評価の結果概要等を報告している。そこでの意見は所属ミーティング等で紹介し、必要に応じて協議を行っている。	運営推進会議は、年間計画に沿って2ヶ月に1回定期的に開催されている。ご家族や地域代表、行政担当者等から様々な意見や提案が出され、運営に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	法人主催の研修会に、市職員（地域包括支援センター）への参加を促し、そこでの意見交換等を通じて職員との共通理解が出来るように努めている。また、入居希望者の状況に応じて、市町村担当者との連携を強化し、スムーズなサービス提供開始へと繋がるように努めている。	ホームの課題を市や地域包括支援センターに直接相談したり、市内の事業者連絡会で行政担当者との定期的意見交換を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>スピーチロックなどもしていないか、職員同士でケースカンファレンスなどで挙げて考えている。</p>	<p>身体拘束廃止の意義を理解し、入居者への直接的な拘束を含め、ホーム内の環境においても、拘束の無い自由な生活ができるように支援している。入居者の実態に合わせたケアが行えるように、定期的なカンファレンスも実施している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束廃止委員会を月1回開催し、その中で現在の身体拘束の状況等を報告することにより、虐待防止に向けた取り組みを協議し、防止に努めている。また、高齢者虐待、身体拘束廃止に向けた研修に参加し、職員の虐待防止に関する理解を深めるよう努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者等が権利擁護に関する研修会に参加し、その内容について所属ミーティング内で勉強会を開き、職員へ指導を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、十分な時間を取り、重要事項説明書やパンフレットを使ってケアの取り組みや考え方はもちろん、利用料金または事故発生時の対応等や終末期に対する方針、医療連携の実際等を説明し、サービス提供開始の同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>開設以来、家族会を設け、家族主導で運営が行われている。家族会では意見交換を行う場を設け、その際は職員は退席して家族だけの協議を原則としており、家族の意見や苦情を代表者から伝えてもらっている。また、毎月の家族面談でも家族からの要望等を伺っている。苦情が発生した場合は苦情処理対応マニュアルの手順に従い、苦情処理報告書に記録し、必要に応じて改善策や再発防止策を講じている。</p>	<p>ご家族から日常的に意見を出してもらえるように、ホーム内に意見箱を設置した上で、毎月、個別に面談の機会も設けている。また、家族会を年2回実施し、出された意見や提案を運営に取り入れている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は毎月1回の所属ミーティングで、職員の意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり、聞く姿勢を持った態度で接するように心がけている。所属ミーティングで挙げた職員の意見等は適宜毎月の法人内の所属長ミーティングを通じて運営者等へ反映される仕組みとなっている。	ホームにおける課題について、日々、職員から意見をもらうほか、定期の所属ミーティングの場においても意見を募り、法人幹部とも検討して業務改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	積極的なストレス軽減策として、管理者と職員一人ひとりの個人面談の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間研修計画に基づいた各種研修会の案内や外部研修会の案内を職員に行っている。また、業務時間内での研修の場合等、勤務調整が困難である。研修不参加の者等を対象に所属ミーティング内で随時、研修報告、勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域の事業所で作る連絡会に在籍し、管理者等が定期的な会合に出席し、情報交換を行っている。他の職員へも参加の呼びかけを行っているものの出席者が少ないのが現状であったが、最近では業務の効率化、勤務調整等の配慮により徐々に出席者が増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他施設等から入居する場合には、入居者の状況を前担当者からの申し送りや書面情報により把握し、入居前に担当職員を決定してスムーズなサービス開始へと繋がる配慮を行っている。また、入居当日は出来るだけ担当者が関わり、アセスメントシート等を使用した解決すべき課題の把握を行い、相談者の困っていることや不安を早く確認できる体制を取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の機会を設け、施設の運営目的や入居者がどのような生活をしているか等を説明し、アセスメントシート等を使用した解決すべき課題の把握を行い、現在家族が困っていることや不安、家族の健康状態等を十分に伺う体制を取っている。見学は随時受け入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシート等を使用した解決すべき課題の把握を行うなかで、相談者の求める必要な地域の必要なサービスについて紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居当初の情報提供の場合だけではなく、常に家族と向き合い、入居者の思いや生活の様子を面会や家族面談時に細かく報告すると共に、家族の思いなども十分に伺う体制を取っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面談等を通じて入居者の状況を細かく報告すること等を通じて家族関係の情報把握、理解に努めている。また、遠方の家族等へも年4回程度情報発信（生活の様子の写真やケアプラン・経過記録・行事参加案内など）している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に行ったり、馴染みの美容師が事業所に訪れている。	入居前の生活状況を把握し、これまで出かけていた美容院や買い物先、デイサービス等の場所へ出向き、馴染みの方々の交流ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前・午後（40分～60分）ティータイムの時間を使って、レクレーションや脳活性リハビリ等を行っている。その中で入居者、一人ひとりの自尊心を高める声かけや主役体験ができる環境づくりに心がけている。また、入居者同士がトラブルを起こさない配慮を常に心がけ、カンファレンスでは入居様同士の助け合いが出来る声かけなどの協議、検討を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等に転居した前入居者が事業所に遊びに来ている。また、転居した場所へも職員や他の入居者等と共に訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で入居者の行動や言葉の一つひとつを大切に捉え、入居者の思いを知る努力をしている。また、毎月の家族面談では、どのような暮らしが入居者にとって一番良いのかを常に話し合い、支援計画に反映している。	入居者の暮らし方への意向や思いについては、入浴中や居室の掃除の際における何気ない日常会話の中から汲み取り、申し送りノートなどを利用して情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から自宅での生活の様子を聞き、個人台帳に記録している。知人や親戚が面会に来た場合にも自宅での生活の様子を伺う機会を出来るだけつくっている。また、入居者にも日常の会話を通じて、どのような暮らしをしていたかを聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のペースを常に確認しながら、行動や言動の変化を注意深く見守り、出来ることや出来ると思われることの発見を常に心がけている。また、ケアチェック表等を用いながら入居者の生活状況を把握し、支援計画の評価に役立てている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は出来ること、出来ると思われることの発見を常に心がけ、家族面談を通して常に入居者にとってどのような暮らしが良いか話し合い、家族、入居者の意見を把握するよう努めている。また、月1回のカンファレンスで全職員の意見を聞き、これらを支援計画の作成、改善、評価に役立てている。	毎月、入居者及びご家族との個別面談、職員間のケアカンファレンスを通して、現状の介護計画についての検討が行われ、より良い生活へ向かうように計画の修正が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援計画に基づいた支援の内容を日々個別に記録している。記録用紙は数字として表せるものと、言葉として表現しければならないものを分ける工夫を行うことにより、業務の効率化を図っている。個別にケアチェック表を用いて日々の支援の実践を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要支援者への介護予防サービスの提供、一時的な利用を希望する者への短期利用や医療連携体制の整備を行っている。また、家族の状況に応じて通院や送迎などの必要な支援を柔軟に行っている。検査のための入院や1週間～2週間の入院が必要になった場合等は、必要に応じて居室の確保を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	『大隅地域福祉ネットワーク』に参加し(1回/2ヶ月開催)、地域資源提供者たちと直接話し把握に努めている。また、行事などがある際は声をかけてもらうようお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診等に関しては、入居者や家族の希望に応じて対応し、適切な情報提供等希望する病院等との円滑な連携に努めている。基本的には、家族同伴の受診となるが困難な場合は、職員が代行する。	入居者及びご家族が選択したかかりつけ医への受診支援や文書の交換により、適切な医療が受けられるように支援している。さらに、認知症専門医との連携にも努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を構築する訪問看護ステーションの協力の下、日々の健康管理や医療面での相談・助言・対応を24時間体制で行っている。また、定期的に訪問看護員が入居者の健康状態を確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所は緊急時等の対応を依頼する協力病院として、近隣歯科医と法人関連病院と必要な契約を結び、優先的な医療提供の確保に努めている。入院時は、入院先の病院に入居者の施設での状況・支援方法等を情報提供し、職員は入院後も面会して状況を確認している。また、家族とも協力しながら医療機関と三身一体となって早期退院へ向けて常に情報交換できる体制を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所における重度化した場合や終末期における支援のあり方については、入居時または入居前の面談等において重要事項説明書を用いて説明している。入居者の状態が著しく変化した場合には、緊急に家族面談を行い、今後の支援等について、かかりつけ医の意見をふまえて協議している。	入居時に重度化した場合の対応について、入居者及びご家族の意向とホームの体制を話し合っている。入居後も、状態の変化に合わせて話し合いを繰り返しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	支援としてかかりつけ医、家族と協力しながら常に情報交換できる体制を作っている。急変時の対応等について運営規程に定め、緊急事対応等のマニュアルを整備し、適切な対応がとれる体制を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて近隣の方々に事業所で火災が発生した場合の協力依頼や予防に関する協議を行っている。また、防災訓練を年2回入居者と一緒に行っている。(自衛消防の流れを作成している。)	地区消防組合の立ち会いのもと、避難訓練を年2回実施し、設備の点検等も行われている。また、地域の方々への協力依頼や予防に関する協議を行っている。	自動通報装置の設置計画があり、設備面での充実が図られるので、今後は近隣の方々を含めた、夜間における迅速な応援体制の構築に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時に他の入居者が気にならないさりげない声かけや排泄失敗等において他の入居者が気にならない配慮、工夫を行う等、入居者の人権を尊重した言葉かけや記録等を行っている。また、職員へのプライバシーに関する研修やプライバシー保護マニュアル等の活用を通じて支援を行う際に注意している。	入居者を尊重し、排泄や入浴といったケアにおいては、羞恥心に十分配慮した声かけや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において入居者自身が決定していくことを念頭において支援している。外へ出かける場合、ボランティア参加や習慣化されているイベントに参加する場合等必ず、なぜ始まったか、どういう目的か、入居者一人ひとりの役割は何かを必ず説明し、事あるごとに各人に参加の確認をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な細かなスケジュールは特に設けず、入居者のペースに合わせた生活の支援を行っている。就寝も入居者の休みたい時間に休み、起床もなるべく声をかけずに、音や匂い、明るさで朝であることを自分で理解できるような環境づくりを心がけている。買い物、散歩等も入居者の意志をなるべく尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	馴染みの美容室へ出かける入居者の支援も行っている。朝・夕の着替えについては出来るだけ入居者が選べるように支援している。身だしなみを調える鏡の前に櫛や化粧水を置き、入居者が自分で使うことが出来るように配置している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員や入居者、家族で管理する事業所の菜園で育てた野菜を収穫して、入居者と職員と一緒に料理して、同じものを全員で食事している。献立についても、新聞折り込み広告を見て献立を立てたり、スーパーへ買い物へ行った際に入居者に相談して決めている。	自家製の野菜を収穫して入居者と職員と一緒に調理したり、同じテーブルで同じものを食べるなど、食事が楽しみなものとなるように工夫しながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物は緑茶、紅茶、麦茶、コーヒー、ココア等いくつか選択できる物を揃えている。嗜好品については本人の体調を優先したり、長期に渡る保存による食品の劣化を防ぐ目的から職員が管理する場合がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声かけを適宜行い、入居者の能力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。定期的に就寝前に、義歯の洗浄を薬を使って行っている。また、職員は口腔ケアに関する研修を受けて、より効果的な口腔内の清潔保持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツを使用する入居者についても必要性をカンファレンス等で議論し、検討を重ね、下着とパットに変更する入居者も少なくない。個々に日中と夜間のパットを替えて、身体状態の変化による場合や夏場と冬場の尿量の違いによる場合等、パットの検討は随時行っている。	一人ひとりの排泄の状態及び排泄パターンを理解しており、快適なタイミングでトイレにおいて排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘防止の対策として朝食時にきなこ牛乳やヨーグルトなどを用意し、自然排便が促せるように配慮している。また、排便コントロールが困難な入居者は医師や看護師に相談し、その指示に従っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は特に決めておらず、毎日お風呂がわいている。入りたいときに入りたいだけお風呂を楽しめる。また、入浴を好まない入居者については複数の職員が声をかけたり、人前で入浴を促すのではなく、一人になった時に対応するように心がけ、納得して入浴が行なえる工夫を行っている。	入居者の希望や状態に応じて、毎日でも入浴できる準備がなされている。入浴を拒否される方に対しては、声をかける職員を替えたり言葉かけの仕方を工夫するなどして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、特に午前中は散歩、家事等の活動的な内容で過ごし、午後からは、一人ひとりのペースに合わせてゆったりした時間を過ごしている。夕方は、穏やかに過ごせるように職員の声のトーンも配慮している。また、寝付けない入居者については、ホットミルクの提供や空腹時は、バナナなどの提供も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用・目的などの説明が記入してある用紙は台帳などに綴ってありいつでも確認できるようにしてある。変化等は1週間に1回の訪問看護時に確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が得意なことを発見し、それを生活に多く取り入れる。また、入居者それぞれの役割を作り、皆が認める場面をつくり、入居者の自尊心を高めている。また、職員は常に感謝の意を忘れないようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節ごとに、車で外出することが多い。また、近くの公園や併設施設の庭に入居者と職員で作ったお弁当を持って出かける機会も多くある。週に一度併設施設の温室ハウスのボランティアとして、老健施設入所棟との交流会等で近隣に出かける機会を多く設けている。	ウッドデッキや庭をはじめ隣接する法人の敷地へ出て交流するなど、日常的に屋外に出ている。年に数回は、遠方への外出や外食を楽しむ機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身が財布を持っていて、お金を使う方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は、いつでも自由ににかけていただくように声をかけている。また、入居者が希望した場合には電話をかける支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を入り口のプランターに飾ったり、庭の野花を花瓶に生けたりしている。音・光もその都度スタッフが意識して調節している。温度計をリビングに置き、エアコンの調節の目安にしている。	落ち着いた雰囲気のリビングルームからは、庭の菜園を眺めることができる。換気が行き届き、テレビの音や照明も不快に感じないレベルに調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファをおいたり、庭にベンチをおき、一人の時間を大切に思い思いに過ごせる環境を設定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者に応じて、好みの日用品や写真などが置かれ、環境整備は、家族が中心となって行っている。	入居者の家庭にあった仏壇や賞状、思い出の写真などが飾られており、本人が居心地良く暮らすことのできる居室空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	口腔ケアをいつでもしたいように歯ブラシとコップを出している。居室の前に名前プレートをつけ自分の部屋がわかるようになっている。ほうきを見えるようにしている。茶碗洗いできるように、先にスタッフが見せ洗ったものを伏せやすいようにしてる。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあがいやんせ

作成日 平成22年5月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災が発生した際の対応が電話での通報と消火器であるが、夜間は職員一人対応なので入居者の避難もあり、より早く簡単に人が呼べる方法が必要である。	1. 火災が発生した時、一人で簡単により早く通報できて手数を増やし、入居者様が安全に早く避難できるようにする。 2. 災害時の対応について、食料なども含む環境を整える。	1. 隣接する介護老人保健施設の地元消防団があり、当方でも協力がもらえないか応援体制の構築を検討していく。 2. 非常食・水分の確保や災害時の対応について流れを作成する	1年間
3	52	事業所の畑に入居者の携わりが今まで少なかったもので、もっと携われるようにする。	体が自由に動かない入居者も畑作物の種まき、育成、収穫の何れかに携わって頂く。生きがい作りと現役で活動されていた頃を思い出して頂く。	肥料は有機肥料や事業所庭の落ち葉にて作った腐葉土を使う。耕作、種まき、育成、収穫に入居者様に参加して頂き、安心安全な旬な食材を食べて頂く。	1年間
2	55	入居者の身体状況が変化し、ハード面や運営規定の検討が必要になってきている	1. 手すりやソファ等の高さや物品の検討・調整する。 2. 誰が見ても分かりやすい運営規定を目指しの見直しをする	1. セラピストと協力し手すりやソファの高さの検討。物品の選定設置。 2. 運営規定の見直し・検討・事業所としての方針を明確にする	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。